

3 公民

平成17年度版

<平成17年度版への改訂について>

平成16年3月に国立教育政策研究所教育課程研究センターより「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発」の「報告」が公表されたことや、各学校における先生方の実践研究の成果等により、次の点を新しく付け加えた。

・従来の單元ごとの評価規準と各授業時間毎の指導計画の部分に、新たに、「学習における具体的評価規準」を明示し、大単元の目標と評価規準が小単元び授業のそれに結びつきやすくした。

上記の改正点は、以下の目次の項目の、「現代社会」のと、「倫理」のとに具体例を示した。

<目次>

1 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き

「指導と評価の年間計画」について	P 1
評価規準作成の手引き	P 2

2 現代社会

指導と評価の年間計画の例	P 3
單元ごとの評価規準の例 (「現代に生きる私たちの課題」を例に)	P 4 ~ 5
評価規準を明確にした単元の指導計画の例 (各時間ごとの指導と評価の計画)	P 6 ~ 7
学習指導案の例	P 8 ~ 9

3 倫理

単元の評価規準の例 (「青年期の課題と自己形成」を例に)	P 10
評価規準を明確にした単元の指導計画の例 (各時間ごとの指導と評価の計画)	P 11

4 政治・経済

指導と評価の年間計画の例	P 12
單元ごとの指導と評価の計画の例	P 13 ~ 14
学習指導案の例	P 15

5 【補説】目標に準拠した評価と評価規準について

P 16 ~ 17

6 【補説】「評価から評定への総括」の具体例

P 18 ~ 19

1 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引き

「指導と評価の年間計画」について

P 3 以降の各科目において例示した年間計画は、学習指導要領に示された「目標に準拠した評価」の実施を前提に、生徒の学習活動に対するより適正な評価と、学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成したもので、次の特色がある。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、授業内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まったが、この計画は、単元ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイントも含めて記述している。

評価の方法を記述し、評価から評定への道筋が明確でありかつ説得力を持つように記述している。

各学校ごとに、それぞれの到達目標に向けた具体的な学習活動の取組と、指導と評価の留意点を記載。_____

高等学校学習指導要領の各科目の目標より記載。

【参考例：3ページ（現代社会）】

月	指導と評価の年間計画	評価規準
4月	現代社会の概観と発展的発展の理解	現代社会の概観と発展的発展の理解
5月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
6月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
7月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
8月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
9月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
10月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
11月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
12月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
1月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
2月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解
3月	現代社会の発展的発展の理解	現代社会の発展的発展の理解

授業で行う具体的な学習活動とそのねらい（目標）とともに、評価のポイントを記載する。
ポイントをどこに置かかによって、観点ごとの評価規準の内容が決まる。

具体的な学習活動に対する評価方法・手段を記載。
目標準拠評価では学習活動と評価方法・手段をセットにして事前に用意しておくことが必要。

この現代社会の年間計画では、「学び方」の学習がスキルとして計画されている。
例：スキル 課題の設定と調査計画の立て方
スキル 討論の方法（ディベート、ロールプレイ）
「課題を設定して追究する学習」については、各科目の学習指導要領の趣旨に従い、年間計画の中に位置づける必要がある。

評価規準の作成の手引き

評価規準については、次の内容構成で作成する。なお、P.11～12の補説参照。

- 1 科目の目標 …学習指導要領に示す当該科目の目標を記載する。
- 2 科目全体の評価の観点 …学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成する。
具体的には、平成16年3月に国立教育政策研究所教育課程研究センターより公表された「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発」の「報告」（以下「報告」とする）に記載されたもの。
- 3 大項目（大単元）ごとの評価規準 …学習指導要領の「2 内容」の大項目ごとの評価規準。
具体的には、上掲の「報告」に記載されたもの。
- 4 単元（学習のまとまりごと）の目標 …実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標を記載する。
- 5 単元（学習のまとまりごと）の評価規準 …単元（学習のまとまりごと）に4観点別に示した評価規準。
上掲の「報告」に「内容のまとまりごと」の「評価規準の具体例」として示されたものを基本に記載する。

（例）

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
・ 科学技術の発達と生命の問題に対する関心が高まっている。	・ ・ ……	・ 科学技術の発達と生命の問題に関する諸資料をさまざまなメディアを通して収集している。	・ ・ ……

- 6 各授業時間ごとの主な内容（単元別学習計画） …単元（学習のまとまり）を構成する各授業時間ごとに主な学習活動と評価の観点、方法などを記載する。

各授業時間ごとの主な内容（単元別学習計画）

項目名（授業名）			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	学習内容の主な内容を記載	上記の具体的な内容【関心・意欲・態度】 上記の具体的な内容【思考・判断】 評価の観点は次のように略記することもあり。 【関心・意欲・態度】 = 【関】 【思考・判断】 = 【思】 【技能・表現】 = 【技】 【知識・理解】 = 【知】	評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載
第2時		上記の具体的な内容 上記の具体的な内容	評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

2 現代社会

指導と評価の年間計画の例

目標 【学習指導要領】	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導の上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が興味・関心を持って意欲的に授業に取り組むことができる導入として、身近なテーマを題材に調べ、発表する学習を冒頭に実施する。 現代社会の基本的な問題と人間に関わる課題を自己の問題・課題として考察することができるように、世界・日本・地域の具体例を織り交ぜながら実施する。 有用な情報を主体的に選択し活用する技能を習得するため、随所に情報機器を利用した資料収集を実施し、加えてその資料の加工、発表を通して論理的な思考力が身に付くように配慮する。 定期考査においても観点別に問題の作成を行い、知識理解のみならず思考力、表現力も評価できるような方法を工夫し、生徒の多面的な能力評価を行う。

月	単元名	使用教科書項目(東京書籍『現代社会』)	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	第1部 現代に生きるわたしたちの課題	はじめに スキル . メディアを読み解く スキル . 課題の設定と調査計画の立て方 調べよう・考えよう 科学技術の発達と生命	<ul style="list-style-type: none"> 1時間目の導入部分でのアンケート。 第1部で実施する課題追究学習の説明。その導入として新聞の読み方、テレビの見方について考える。 スキル については、 と関連させて実施する。 科学技術の功罪について、生命との関わりで考察する。 わかりやすくまとめた発表をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を評価 収集資料提出 発表作品を相互評価、自己評価
5月		豊かな生活と社会福祉の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 2作目の課題に対する調べ学習として、情報機器を利用した資料の収集、加工、プレゼンなどを利用した発表をする。 豊かさとは何かについて考え、大切にすべき価値観などについて思考することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プレゼン資料を評価 小テスト
6月	第2部 第1章 現代の社会生活と青年	1 現代社会の特質とわたしたちの生活 情報化の進展と生活 国際化のなかの人間	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の特質としての国際化、情報化、身近な事例を通して理解する。 「大衆の社会」、少子・高齢社会については、第1部の基本的知識として説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント確認 収集した地域事例を評価
7月		2 現代社会と青年の生き方 青年であること 社会とのつながり 生きがいと進路の創造 <前期中間考査> テスト返却 青年期に関するビデオ視聴 3 よりよく生きることを求めて よく生きるということ 近代科学の考え方 人間の尊厳 日本人のものの考えかた 外来文化の受容と日本の伝統思想	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ直すアンケートや心理テストを実施しながら友人、家族、学校、社会などとの関係を考察する。 考査では、調べ学習において身につけた表現する力を見る問題も取り入れる。 先人の思想をマンガ等を利用してわかりやすく理解すると共に、生活文化や伝統が自己の価値観や生き方に与える影響について気が付く。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの意見を確認 観点別考査問題で評価 簡単な調べ学習「愚鉄を受けた思想家」のレポートを評価 小テスト
9月	第2章 現代の経済と国民福祉	1 経済のしくみ 技術革新と産業社会の変化 現代の企業 市場経済のしくみ スキル . わからないことを調べるには 国民経済の活動水準	<ul style="list-style-type: none"> 現代の企業の持つ特徴を多面的に考察する。 市場経済の仕組みを身近な事例に置きかえて考察することで今の日本経済の状況を新聞等の資料を通して理解する。 第1部で発表した作品の再考察を夏休みに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント確認 収集した資料を評価
10月		2 政府の経済的役割 市場と政府 財政と財政制度 金融の役割 3 変化する日本経済 高度経済成長と産業構造の転換 経済のパル化とその崩壊 日本の財政問題 金融の自由化と国際化 <前期期末考査> テスト返却 関心のある経済ニュースの発表 中小企業と農業	<ul style="list-style-type: none"> 公的機関が経済に果たす役割を具体的な事例を用いて総合的に考察し、理解する。 パルとその崩壊、そして現在の経済状況に至った原因と今後の見通しを、様々な資料を準備して解説し、考察する。 新聞、ニュース等の資料も活用して関心を持つ。 新聞等からの読みとり、考察もテストに取り入れる。 農業の問題について、国際的な枠組みの中での取り組みを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 視聴覚資料を通しての感想を提出。 経済ニュースの発表を相互評価 事後感想を評価 小テスト
11月	第3章 日本国憲法と民主政治	1 民主政治とは 民主政治の原理 民主政治のしくみ 世界のおもな政治体制	<ul style="list-style-type: none"> 各国の政治体制について、インターネットでの検索による資料収集で理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 資料を評価
12月		2 日本国憲法と基本的人権 日本国憲法と三つの原理 基本的人権の保障(1)(2) 新しい人権と人権の国際的広がり スキル . 討論の方法(ディベート、ロールプレイ) <後期中間考査> 3 国会・内閣・裁判所 テスト返却 国会と政党 内閣と行政 裁判所と法の支配	<ul style="list-style-type: none"> 憲法の制定過程と3つの原則について理解する。 生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等、法と規範についてさまざまな判例よりその認識を深める。 討論の方法としてディベート、ロールプレイの手法を学習し、資料を収集、判例を利用してグループで実践する。 これらを通して、社会の変化やさまざまな立場、考え方を踏まえた判断の仕方を習得する。 国会を中心とした国民参政の方法を通じて国民主権が実現されている仕組みを理解する。 構造改革、司法改革などとも関連づけて三権を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 討論による相互評価、自己評価 判例として収集した資料を評価 プリント確認
1月	第4章 国際社会と人類の課題	1 国境を越える経済 国際経済のしくみ 戦後国際経済の枠組みとその変化 先進国間の対立と協調の時代 企業活動のグローバル化 グローバル化する国際経済	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の平和主義と平和の維持を関連づけて考察する。 為替の仕組みについては、シミュレーションで意欲付けをする。 国際経済の歴史の変遷について具体的な出来事を関連させて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント確認 小テスト
2月		2 ポーランド化のなかの地域 地域経済統合の進展 変容するOIAとアジアの経済 多様化する南の世界	<ul style="list-style-type: none"> 労働力、資本、技術、情報などが地球規模で移動し、国際的な依存関係が緊密化する中で、世界各国の様子を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを視聴した感想を評価
3月		3 国際社会の成立と戦後の動向 国際社会の成り立ち 国際紛争を避けるしくみ 国際連合の現状と課題 東西対立とその後の世界	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会や国際協力、国際平和という概念を具体的な事例を通して興味を持って理解する。 国連の活動と日本の果たすべき役割を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント確認 小テスト
		4 国際社会の課題 核兵器と軍縮 環境・人口・食糧問題 民族問題と紛争 国際社会と人権 地球人として - 日本の役割 - <後期末考査>	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな歴史的事項をもとにしたビデオの視聴を通して、国際問題に興味関心を持ち、その中で日本の役割について討論してみる。 最後の考査は、知識理解についての出題と、思考・考察させる問題、自分の考えを表現させる問題を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントを整理したノート点検 討論による自己、相互評価

単元ごとの評価規準の例（「現代に生きる私たちの課題」を例に）

1 科目の目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 科目全体の評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的な問題と人間にかかわる課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的な問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的な問題と人間としての在り方生き方にかかわる事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。

3 大項目（大単元）「(1) 現代に生きる私たちの課題」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚している。	現代社会の諸問題について自己との関わりに着目して課題を見だし、多面的・多角的に考察し、いかに生きるかについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。	現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用し、学び方の技能を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の諸問題の現状や問題点、本質及び学び方について理解し、その知識を身に付けている。

【補足：「課題を設け追究させる学習」について】

大単元「現代に生きる私たちの課題」は、「現代の社会の諸問題について自己とのかわりに注目して課題を設け、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追究する学習を通して、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚させる。」ことを目標に、「課題を設け追究させる学習（課題追究学習）」を実施する単元である。

課題追究学習が具体的に行われるためには、例えば 課題の設定、課題に必要な資料の収集、課題の追究、課題追究のまとめ、といった手順が考えられる。追究にあたっては、生徒自らが追究する課題と学習指導要領が示す5つの問題領域（地球環境問題、資源・エネルギー問題、科学技術の発達と生命の問題、日常生活と宗教や芸術とのかわり、豊かな生活と福祉社会）との関わりについて生徒が気付けるように工夫するとともに、課題に必要な資料の収集と活用法についての学習にも留意する必要がある。具体的には、グラフの読み方や簡単な社会調査の方法に関する指導とともに、コンピュータや情報通信ネットワークの効果的な活用法についての学習などが考えられる。ここでは、「討論の方法」含めて年間4回の学習（スキル～）が計画されている。なお、P.6以下では、「クローン技術」をテーマに、その「プラス面とマイナス面」を考える授業例と評価の方法について紹介する。

4 大項目「現代に生きる私たちの課題」の各単元の評価規準例 科学技術の発達と生命

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達と生命の問題に対する関心が高まっている。 科学技術の発達と生命の問題について自己との関わりに着目して設定した課題を意欲的に追求している。 科学技術の発達と生命の問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達と生命の問題について自己との関わりに着目して課題を見だしている。 科学技術の発達に伴う生命の考え方の変化について多面的・多角的に考察している。 科学技術と生命の在り方について社会の変化やさまざまな立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達と生命の問題に関する諸資料をさまざまなメディアを通して収集している。 収集した資料の中から科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の成果が社会生活のすみずみまで浸透するとともに、生命の在り方にまで影響が及んできたことについて理解し、その知識を身に付けている。 科学技術の発達と生命の問題が生じる背景や問題点を追求する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済などさまざまな観点があることを理解し、その知識を身に付けている。

地球環境問題

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題に対する関心が高まっている。 地球環境問題について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 地球環境問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題について自己とのかかわりに着目して課題を見いだしている。 地球環境問題について環境保全をどう図っていくかを多面的に考察している。 地球環境問題に対する国際的な取組や協力、自らの生活の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から地球環境問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 地球環境問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表を行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題は、人間の様々な活動が自然環境への負荷を増加させることにより地球環境の汚染や破壊の問題であることを理解し、その知識を身に付けている。 地球環境問題が生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。

資源・エネルギー問題

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 資源・エネルギー問題に対する関心が高まっている。 資源・エネルギー問題について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 資源・エネルギー問題について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源・エネルギー問題について自己とのかかわりに着目して課題を見いだしている。 資源・エネルギーの消費・利用について多面的・多角的に考察している。 資源・エネルギー問題に対する自らの生活の在り方や価値観について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源・エネルギー問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から資源・エネルギー問題について設定した課題を追究する学習に役立つ情報に主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 資源・エネルギー問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源は有限であることについて理解し、その知識を身に付けている。 資源やエネルギーの開発・利用の在り方や新エネルギーの開発について、世界の国々の間、様々な立場で、それぞれの考え方があることに気づき、その知識を身に付けている。 資源・エネルギー問題の生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。

日常生活と宗教や芸術とのかかわり

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と宗教や芸術とのかかわりに対する関心が高まっている。 日常生活と宗教や芸術とのかかわりに着目して自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 日常生活と宗教や芸術とのかかわりについて自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と宗教や芸術との関わりについて自己とのかかわりに着目して課題を見いだしている。 心理や理想を追い求めることの意味や精神的な豊かさについて多面的・多角的に考察している。 信念や信仰、芸術などの人生における意義について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と宗教や芸術とのかかわりに関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から日常生活と宗教や芸術とのかかわりに着目して設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 日常生活と宗教や芸術とのかかわりについて設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における慣習の中に宗教的意味をもつものがあることや、芸術が生まれた社会背景などについて理解し、その知識を身に付けている。 宗教や芸術が生まれる背景や人生における意味を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。

豊かな生活と福祉社会

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 豊かな生活と福祉社会に対する関心が高まっている。 豊かな生活と福祉社会について自己とのかかわりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。 豊かな生活と福祉社会について自己の在り方生き方と関連させながら考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな生活と福祉社会について自己とのかかわりに着目して課題を見いだしている。 物質的、精神的、文化的に豊かな社会とはどのような社会かについて多面的・多角的に考察している。 住宅、社会資本、労働と余暇、地域社会の在り方、社会保障制度の在り方などについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな生活と福祉社会に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。 収集した資料の中から豊かな生活と福祉社会について設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法を身に付けている。 豊かな生活と福祉社会について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国や地方公共団体が社会保障制度を充実させることの必要性について理解し、その知識を身に付けている。 福祉社会における自助努力の必要性について理解し、その知識を身に付けている。 豊かな生活と福祉社会が求められる背景や豊かな社会とはどのような社会かを追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点があることを理解し、その知識を身に付けている。

評価規準を明確にした単元の指導計画の例

<平成17年度版においてこれまでと比べて工夫した点>

- 1 大単元及び単元ごとの評価規準に加えて、「学習活動における具体の評価規準」を明示した。
- 2 「学習活動における具体の評価規準」が、単元の指導と評価の計画（各時間ごとの指導と評価の計画）及び学習指導案のどの部分にかかわるかを明示した。
- 3 各評価部分において、目標達成が不十分な生徒などへの「措置」は記述していない。

1 単元 「(1)現代に生きる私たちの課題 —科学技術の発達と生命—」の目標と評価規準

単元の目標

科学技術の発達がわたしたちにどのような影響をもたらすかを考え、具体的な事例をあげてその問題点を考察するとともに、生命の問題が生じる背景をさまざまな観点から考察することができる。

大単元および単元ごとの評価規準と学習における具体の評価規準

	大単元の評価規準 (内容のまとめりごとの評価規準)	小単元ごとの評価規準	学習活動における具体の評価規準
関心・意欲・態度	・現代社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さを自覚している。	・科学技術の発達と生命の問題に対する関心が高まっている。 ・科学技術の発達と生命の問題について自己との関わりに着目して設定した課題を意欲的に追究している。	「科学技術の発達と生命の問題」について、さらに多くのテーマを見だし追究しようとしている。 生殖医療の問題点について自己との関わりに着目して焦点とした項目について積極的に意見を述べている。
思考・判断	・現代社会の諸問題について自己との関わりに着目して課題を見だし、多面的・多角的に考察し、いかに生きるかについて社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。	・科学技術の発達と生命の問題について自己との関わりに着目して課題を見だしている。 ・科学技術の発達に伴う生命の考え方の変化について多面的・多角的に考察している。 ・科学技術と生命の在り方について社会の変化やさまざまな立場、考え方を踏まえ公正に判断している。	「科学技術の発達と生命の問題」について、さらに多くのテーマを見だしプリントに記入している。 生殖医療の問題点について、多面的・多角的に考察している。 生殖医療倫理委員会の討議に積極的に参加し、その判定を公正にしている。
資料活用 の技能・表現	・現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用し、学び方の技能を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	・科学技術の発達と生命の問題に関する諸資料をメディアを通して収集し、その中から設定した課題を追究する学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 ・課題の設定の仕方、統計や資料の見方、情報の検索や処理の仕方、簡単や社会調査の方法を身につけている。 ・科学技術の発達と生命の問題について設定した課題を追究し考察した過程や結果を、レポートや報告書にまとめたり、発表などを行ったりして表現している。	「科学技術の発達と生命の問題」についてのレポートにおいて、諸資料をさまざまなメディアから収集している。 生殖医療の問題点についてプリントに自分の考えを記述している。 メディア・リテラシーの基本的知識を身に付け表現することができる。 「科学技術の発達と生命の問題」についての工夫したレポートを作成している。
知識・理解	・現代社会の諸問題の現状や問題点、本質及び学び方について理解し、その知識を身に付けている。	・科学技術の成果が社会生活のすみずみまで浸透するとともに、生命の在り方にまで影響が及んできたことについて理解し、その知識を身につけている。 ・科学技術の発達と生命の問題が生じる背景や問題点を追究する観点として、倫理、社会、文化、政治、経済などさまざまな観点があることを理解し、その知識を身につけている。	生殖医療の問題点の概要をプリントに記入している。 「科学技術の発達と生命の問題」について、背景にある複数の分野を意識しつつ多くのテーマを見だしプリントに記入している。

2 単元の指導と評価の計画（各時間ごとの指導と評価の計画）の例

（特に記録を残す評価）

1 現代社会学習科目ガイダンス（現代社会学習の意義） 年間指導計画の第1時間目の授業			
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
1 時間目	現代社会の学習の意義 高等学校における公民科・地歴科の学習の特色	現代社会学習の意義を、1 主体的な考察の重要性、2 人間としての在り方生き方についての考えることの重要性、3 広い視野からの物事を見つめることの重要性を中心に理解する。 学習の2つの要素を理解する。 ・基本的な知識を理解する講義形式の学習 ・考察、課題追究などの主体的に進める学習 「現代社会授業アンケート」への回答 ・中学校の社会科各分野の学習内容、現代社会の諸課題で興味・関心が高いもの等に関する状況を回答	アンケート提出 中学校での学習の定着状況、地歴公民科の学習事項への興味・関心の状況を分析する。
2 メディア・リテラシーと課題追究学習のテーマ設定			
2 時間目	アンケート結果の紹介 メディア・リテラシーの内容	前時のアンケートの中の、生徒の公民分野への興味・関心の状況を確認し、今後の学習の予定を、内容と方法の2面で理解する。 メディア・リテラシーについて、インターネットを利用しながら、次のポイントにおいて理解する。 【技】 ・情報収集の方法における工夫の必要性 ・収集した情報の選別の重要性 ・信頼される情報を発信することの重要性	プリント提出
3 時間目	科学技術の発達と生命の問題のテーマの確認 VTR視聴 各自の意見を発表する項目を焦点化 次時の「倫理委員会」の説明	小テーマとして生殖医学に関してその技術の概要を理解する。 【知】 ドキュメント・地球時間『生殖医療はどこまで認められるか』を視聴する。 ・課題の所在の確認 生殖医療はどこまで認められるかについて、焦点となる項目を考え、賛否をまとめる。 発表により、相互に焦点となる項目を確認。 次時の「倫理委員会」討議形式で発表することを理解する。 【技】	行動観察・意見発表 焦点となる項目の設定の良否について確認 プリント提出
3 生殖医療はどこまで許されるか「生殖医療倫理委員会」			
4 時間目	VTRの内容の確認 生殖医療の問題点について確認 生殖医療の行為の適否の判断 「科学技術の発達と生命の問題」に関する他の問題	生殖医療の問題点を議論することについて精子提供者、医学者、精子バンク経営者、判事、生まれてくる子供などいろいろな立場から考えることが重要であることを理解し、積極的に取り組む。 【関】 生殖医療の問題点について、考えを発表する。 【思】 生殖医療倫理委員会1年 組部会を開催し、各グループから出された意見について討議の後、パメラの行動について適否の判断を下す。 【思】 「科学技術の発達と生命の問題」に関して、生殖医療に限らない他の問題を見だし、どのような分野・学問からそのような問題が生じるか指摘する。 【関】 列挙したテーマの中から、さらに調査したいものを選び、資料を収集する。 課題 【思】 【知】	行動観察・意見発表 行動観察・意見発表 行動観察・意見発表 プリント提出 行動観察 プリント提出 (次回プリント提出時)
3 「科学技術の発達と生命の問題」に関するレポート作成			
5 時間目	「科学技術の発達と生命の問題」に関してレポート作成 キーワードの確認	収集した資料をもとにレポートの作成。 【技】 【技】 レポート提出時に、科学技術の発達と生命の問題に関する次のキーワードについて、今後の考えるべき課題であることを確認する。 生命倫理、臓器移植、脳死、クローン、遺伝子操作	プリント(レポート)提出

学習指導案の例

教科(科目)	公民 (現代社会)	単元	現代に生きる私たちの課題の「科学技術の発達と生命」								
本時主題	生殖医療はどこまで許されるか？										
本時の目標	<p>(1) 生殖医療の問題点を議論することについて精子提供者、医学者、精子バンク経営者、判事、生まれてくる子供などいろいろな立場から考えることが重要であることを理解し積極的に考察するとともに、生殖医療の問題点について、自らの考えを発表することができる。【関】</p> <p>(2) 従来の倫理観では対応しきれない生殖医療の発達に対し、その現状を分析し、生殖医療行為の当否を主体的に判断する。【思】</p> <p>(3) 「科学技術の発達と生命の問題」について、複数の視点から多くの問題をテーマとして認識することができる。【知】</p>										
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価									
<p>・前回見たVTRを思いだし、その問題点を確認する。</p> <p>・本時はVTRに出てきたパメラやギャビーの行った事に対する当否を判断する。題して「生殖医療倫理委員会1年 組部会」10分(経過時間)</p>	<p>前時終了時に提出したプリントをもとに生徒の意見を確認する。 VTRの感想(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亡くなった者の精子を本人の承諾無しに使用していいのか？ ・VTRの主人公やその家族のエゴだ。 ・本人にとって幸せなら他人がとやかく言うことではないと思う。 <p>精子や卵子の売買、人工授精、代理母出産などの生殖医療には、法的規制が存在しないことを確認する。</p>	<p>・VTRの内容が思い出せるように、授業の開始時に視聴用プリントを返却しておく。<注1></p> <p><評価の方法> 意見発表、行動観察 【関】</p>									
<p>・少人数のグループをつくり、自分の意見・感想を発表し合い、他人の考えを知る。そして今一度、自分の考えを点検する。</p> <p>・グループ討議の結果をクラス全体に知らせる。</p> <p>25分(経過時間)</p>	<p>(1) グループ内でパメラ、ギャビーの行為について発表する。記録者は「賛成(容認)」「反対(否定)」に分けて、用紙にまとめる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">代表者が黒板の所定のところに板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;"><生殖医療倫理委員会1年 組部会></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 2px;">賛成(容認)</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">反対(否定)</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px;">~~~~~</td> <td style="padding: 2px;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px;">~~~~~</td> <td style="padding: 2px;">~~~~~</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding: 2px;">~~~~~</td> <td style="padding: 2px;">~~~~~</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center;">書き出されたものを全体で眺める。</p>	賛成(容認)	反対(否定)	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	~~~~~	<p>・グループ分け等の準備は前時しておきこの時点で移動を指示する。</p> <p>・各グループに賛成・反対の意見を書くメモ用紙各2枚を配布。</p> <p>・各人が必ずグループ内で発表するように指示する。(必要があれば司会者・記録者を教師が指名)。</p> <p>・机間指導をしながら、討議の進行状況を掌握する。その際、進行の仕方、話し合う際の言葉遣いについても指導する。</p> <p>・板書は他のグループと重複するものがあったとしても書かせる。</p> <p><評価の方法> 机間指導における観察 【思】</p>	
賛成(容認)	反対(否定)										
~~~~~	~~~~~										
~~~~~	~~~~~										
~~~~~	~~~~~										
<p>・各グループから出された意見をもとに、生殖医療の何が問題かを考える。</p> <p>・当否を判断しなければならない論点について自分の考えをまとめ、クラス全体で討議した後、挙手による評決を行う。</p> <p>・自分の意見を書く。</p> <p>40分</p>	<p>(2) &lt;生殖医療倫理委員会1年 組部会&gt;開催この委員会で生殖医療のどんな点について当否を判断するかを決めましょう。黒板の記述を見て同じ点について賛成意見も反対意見もあるものを指摘してください。(予想される論点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夫婦(当事者)の合意があるか？</li> <li>・本人が産むのか？</li> <li>・本人が責任をもって育てられるか？</li> <li>・たとえ親族であっても、死者の精子を勝手に利用していいのか？</li> <li>・親子関係は混乱しないか。</li> </ul> <p>(3) (論点をしっかりとふまえさせながら) Q: パメラとギャビーの行動は許される事でしょうか？意見を述べてください。 Q: ではクラス全体で評決をとります。</p> <p>(4) 各自の判断をプリントにまとめる。理由を明確に示す。</p>	<p>・生徒に考えさせ、発言させる(状況によっては、教師が見比べながら選び出していく)</p> <p>・「子どもの気持ち」も挙がるだろうが、最初は生殖医療の技術面に限ってまとめたい。</p> <p>&lt;評価の方法&gt; 発言とその内容 行動観察</p> <p>&lt;評価の方法&gt; プリント提出 【思】</p>									

<p>・「科学技術の発達と生命の問題」について生殖医療以外の問題点をあげる。</p> <p>・次時のレポート政策の準備</p> <p>50分</p>	<p>資料・教科書等を参考に、「科学技術の発達と生命の問題」について生殖医療以外の問題点をあげ、それが、どのような分野・学問領域とかわるかを示す。</p> <p>自分で調べてみたいテーマを一つ選んで、次時には簡単にレポート（プリントに様式設定）にまとめることができるように、資料の収集を自宅学習課題にする。</p>	<p>・プリントに記入</p> <p>・問題点がどのような分野・学問領域とかわるかは、いくつかの例を示して記入しやすくする。</p> <p>&lt;評価の方法&gt;</p> <p>行動観察 【関】</p>
		<p>プリントには、レポート作成のための説明を掲載。次の項目を明記。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ</li> <li>・テーマ設定の理由</li> <li>・自分の意見のまとめ</li> <li>・情報入手先、出典</li> </ul>
	<p>次時にプリント（レポート）提出</p>	<p>【思】</p> <p>【知】</p> <p>【技】</p> <p>【技】</p>

<注>生徒は前時（第1時間目）に次のVTRを視聴している。

ドキュメント・地球時間『生殖医療はどこまで認められるか』

（NHK教育テレビ・2001年6月22日放映）

- ・この中に登場するおもな人々は、次の通りである。
- ・パメラ（19歳の息子を事故で亡くし、悲嘆に暮れている）
  - .....死亡直後の息子から採取した精子を冷凍保存し、孫の誕生を願っている。そのため、卵子提供者と代理母を現在探している。
- ・ギャビー（夫を病気で亡くした）
  - .....夫の遺体から採取した精子と自分の卵子を体外受精し、自分が出産した。夫の両親も、夫の妹も子どもの誕生を喜んでおり、家族を亡くした痛みが癒されると言っている。
- ・ジャネット＝ベリー（ネバダ州地方裁判所判事）
  - .....生殖医療に対する法整備が十分ではないという理由で、パメラの希望に強い危惧を抱いている。特に生まれてくる子どもにとっての母親、養育義務者の混乱を指摘している。
- ・ロスマン（カリフォルニア州で精子バンクを経営する）
  - .....精子を提供することで女性の母性本能が満足されるのなら、受精の事情は問題にならないと考えている。
- ・時間はももとの番組の時間は約40分であるが、それを約25分に編集してある。

#### <指導上のポイント、考察>

- (1) 「生徒自身が課題をもって活動する」ことをさらに進めるならば、生殖医療の現実についてインターネットや新聞記事、書籍を利用してグループ単位で調べさせる方法も考えられる。またそれらを教師が紹介し、その内容をまとめさせることもよいと思う。また、私自身が必要に駆られて行ったことであるが、関連教科・科目（生物、保健、家庭科など）の教員に、各々の教科・科目での学習内容を確認し、配慮することも効果的であり、また必要かと思う。
- (2) 生徒の実態や状況に応じて教師がその概要を説明したり資料プリントを配布したりする必要もある。また、ロールプレイを導入して提示する方法も考えられる。
- (3) 今回のVTRが「死者からの精子採取による人工授精の当否」について問題を提起するものであったためか、「死者」という言葉への意識が強く働いて人工授精そのものを否定するクラスもあった。授業を行うに当たっては、条件を単純化するために、「不妊に悩む夫婦の人工授精、代理母出産」というテーマを設定した方が生徒にとって理解しやすいかもしれない。
- (4) まとめをし、評決を行う必要があるかは賛否両論ある。私自身としては「課題を提示しただけ」というより、結論を出しある程度の方向性を与えた方が、達成感を得られ、さらにそれを批判・検討して次へのステップにできると考える。ただし、授業を実施してみないと生徒の考えがわからないため、「まとめ」をその場で考えなくてはならないのが苦しい。

### 3 倫 理

#### 単元の評価規準の例

<工夫している点>

この小単元は、学習指導要領では、「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」の中項目、「ア 青年期の課題と自己形成」を対象とするものである。

通常の教科書では、「イ 人間としての自覚」、「ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚」の中項目が、複数の単元による構成が可能であるのに対して、「ア」はこの中項目全体が、せいぜい5～6時間で学習すべき内容である。

このため、そういう実体とリンクしていない計画上だけの評価規準、たとえば、「評価規準の作成、評価の方法の工夫改善のための参考資料」のままの評価規準や評価規準の具体例では、実際には運用が難しく、無理がないように工夫しなければならない。

#### 1 大単元「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」の「ア 青年期の課題と自己形成」の目標と評価規準 大単元の目標

自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせる。

#### 大単元および単元ごとの評価規準と学習における具体的評価規準

	大単元の評価規準 (内容のまとまりごとの評価規準)	単元ごとの具体的な評価規準	学習活動における具体的評価規準
関心・意欲態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期の意義と課題に対する関心を高め、それを意欲的に探究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期の積極的な意義と青年期にある自己の生き方にかかわる課題に対する関心が高まっている。</li> <li>青年期の意義と課題について、豊かな自己形成に向けて、自己の課題として意欲的に探究している。</li> <li>他者と共感でき、共生を大切にしたい自己の生き方について考えようとしている。</li> </ul>	<p>青年期には何を学ぶ必要があるかの意見交換に積極的に臨んでいる。</p> <p>「自分は何を目指して生きるのか」のグループ発表に意欲的に臨んでいる。</p> <p>「アイデンティティの確立には」のプリントの学習において、共生について考えようとしている。</p>
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの体験や悩みを振り返ることから課題を見だし、それに基づいて青年期の意義と課題を多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究し、他者と共に生きる自己の生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの体験や悩みを振り返ることを通して青年期にある自己の生き方にかかわる課題を見いだしている。</li> <li>青年期の意義と課題について、自己の生き方にかかわる課題とつなげ、他者と共に生きる観点から多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究している。</li> <li>他者と共に生きる自己の生き方について、親子や友人、男女の関係の在り方等他者とのかわり、社会や自然とのかわりなど広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。</li> </ul>	<p>プリントの課題について生徒自身の体験や悩みを振り返って考察している。</p> <p>日本人のアイデンティティを考察する中でアイデンティティについて多面的・多角的に考察している。</p> <p>ネットワークアイデンティティの概念を理解し、自分のこととつなげて考察することができる。</p> <p>[定期考査問題として出題]</p>
資料活用 の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの体験や悩みを踏まえて、青年期の意義と課題に関する諸資料を収集し、豊かな自己形成に向けた学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用するとともに、課題を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期の意義と課題に関する諸学問の成果や体験的な話など諸資料を様々な方法により収集している。</li> <li>収集した資料の中から、親子や友人、男女の関係の在り方等他者とのかわり、社会や自然とのかわりの観点から豊かな自己形成に向けた学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。</li> <li>青年期の意義と課題について、自己の生き方にかかわる課題とつなげ、他者と共に生きる観点から追究し考察した過程や結果をノートなどにまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。</li> </ul>	<p>青年期の位置づけを考える上で、書物や知人からの情報を収集してプリントに記入している。</p> <p>青年期に何を学ぶ必要があるかについて、自分の集めた情報を取捨選択して、意見発表につなげている。</p> <p>自分自身の希望と不安を考察し、自分達がどのような状況にあるのかをプリントにまとめている。</p> <p>自分は何を目指して生きるのかを課題も含めてプリントにまとめている。</p>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの体験や悩みを踏まえて、青年期の意義と課題を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来への夢や不安、自己の性格や適性についての悩み、愛と性にかかわる悩みなどが青年期に共通する悩みであることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</li> <li>青年期の意義について、自己確立の基礎を培う時期であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</li> <li>生きる主体としての自己確立のためには、自らの人生観、世界観ないし価値観を形成することが必要であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</li> <li>自己の生き方を探求する上で、親子や友人、男女の関係の在り方等他者とのかわり、社会や自然とのかわりをどのように深めていけばよいかを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</li> </ul>	<p>自己理解の方法として、「欲求不満の解消」などの心理学的な知識を身に付け、青年期の位置づけを理解している。</p> <p>アイデンティティの確立の意味について理解している。</p> <p>人間としての在り方生き方を考えることが、哲学・宗教などの各分野の学習とどのように関係しているかをについての知識を身に付けている。</p> <p>自らのアイデンティティを考えることが今後の授業といかに結びついていくか理解し知識を身に付けている。</p>

評価規準を明確にした単元の指導計画（各時間ごとの指導と評価の計画）の例  
 （特に記録を残す評価）

1 倫理の授業ガイダンス		年間指導計画の第1時間目の授業	
	主な学習内容	主な学習活動・具体的な評価規準	評価の方法・指導
1 時間目	倫理の学習の意義  高等学校における公民科・地歴科の学習の特色	倫理学習の意義を、1 青年期における自己形成の重要性、2 人間としての在り方生き方についての考えることの重要性、3 広い視野からの物事を見つめることの重要性を中心に理解する。 学習の2つの要素を理解する。 ・基本的な知識を理解する講義形式の学習 ・考察、課題追究などの主体的に進める学習 「倫理アンケート」への回答 ・これまでの地歴公民科の学習内容、思想・哲学・宗教・青年期の位置づけ・現代社会の倫理的課題などについて興味・関心が高いもの等に関する状況を回答する。	アンケート提出 生徒の倫理分野における関心と理解の状況を分析する。
2 青年期とは何か その位置づけと特徴			
2 時間目	アンケート結果の紹介  人間とは何か 青年期の位置づけ	前時のアンケートの中の、生徒の倫理分野への興味・関心の状況を確認し、今後の学習の予定を、内容と方法の2面で理解する。 人間とチンパンジーとの違いは何か、について考察する。 青年期の位置付けについて理解する。 青年期について、何をすべきかを書物からの情報の収集と家庭や友人からの聞き取りによって記述する。 【技】	次回にプリント提出
3 時間目	青年期の状況  青年期と自我の発見	青年期には何を学ぶことが必要かをグループ別の意見交換会で確認する。 【関】 【技】 第二反抗期の内容を中心に青年期の特徴について考察する。 生徒自身の希望や不安の状況を自分自身で考察し、現在の自分達がどのような状況にあるのかを表現し、自我の目覚めと青年期の在り方について体験的に理解する。 【思】 【技】	意見交換 行動観察 意見発表  プリント提出
3 青年期の課題と生き方			
4 時間目	アイデンティティの確立とは  アイデンティティの拡散と自己実現の状況	アイデンティティの確立とは何かを、具体的な事例を元に理解する。 【知】  自分の将来の計画を考え、それがどのように実現されていくのかについて考えることを通して、アイデンティティの確立について課題を考察する。 日本人としてのアイデンティティ、個人のアイデンティティなど複数の視点からアイデンティティについて考える。 【思】	発問、意見発表  プリントによる資料からの考察、意見発表 プリント提出
5 時間目	自己理解の方法  欲求不満の解消	心理学的な内容を中心に自己理解の方法を理解する。  欲求不満の解消として人間はどのような方法をとろうとするのか、具体的な事例を考察しながら理解する。 【知】	発問、行動観察
6 時間目	どのような人生を歩むか。  倫理の今後学習の内容は何か。	「自分は何を目指して生きるのか」をグループ別に発表する。 【関】 【技】  「アイデンティティの確立には」のプリントにしたがって、今後の学習が、自分のアイデンティティの確立にどのようにつながっていくのか理解する。 【関】 【知】 倫理の今後の学習がどのように展開し、それがアイデンティティの確立（人間としての在り方生き方を考えること）にどのようにつながっていくのかを理解する。 【知】	グループ別意見交換、行動観察 プリント提出 行動観察、定期考査で確認  行動観察、定期考査で確認

## 4 政治・経済

### 指導と評価の年間計画の例

目標 【学習指導要領】	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組	・教科係を中心に前時の確認や時事問題を提供させる5分間活動を行うことによって、生徒が興味・関心をもち、授業にスムーズに取り組む動機づけとする。 ・具体的な例を提供する中で、基本的な知識の理解に努め、特に、社会が抱える問題については適切な課題設定を行い、相対する考えがあることに気づかせ、それぞれの立場から考察できるようにする。
評価規準を念頭に置いた指導上の留意点	・主題学習では、ディベート形式などを取り入れ、自らの意見や考えを持ち、論理的に表現したり、相手の立場を尊重して討論することによって、思考力、判断力、表現力の育成に努める。 ・普段の授業だけでなく、定期考査においても観点別の問題を作成することにより、知識・理解のみならず思考・判断表現力も評価できるよう工夫する。

月	単元名	使用教科書項目(実教出版『政治・経済』)	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	第1編 第1章 日本国憲法の基本的性格	政治・経済の授業について(はじめに) 1 日本国憲法の成立 2 基本的人権の保障 主題1 情報化の進展と市民生活 3 平和主義と憲法 主題2 平和主義と安全保障	・政治・経済学習の意味 ・日本国憲法の制定経過、3つの基本原理について理解する。 ・基本的人権がどのように保障されているのか理解するとともに、高度情報社会における豊かで安全な市民生活を送るには、どのような自由と規制が必要かを追究させる。 ・自衛隊などが平和主義を掲げる憲法との関連でどのような議論が起こっているのか理解し、自らの考えをまとめ、表現する。	・行動観察 ・プリント確認 ・討論を評価 ・自己評価
5月	第2章 日本国憲法と政治機構	1 国会と内閣 2 裁判所 3 地方自治	・議会制民主主義、三権分立の理念が憲法の中でどのように生かされているかを理解し、今日の問題点、課題について考察する。 ・裁判の公正を保障するための制度を理解する。 ・日本の地方自治の抱える課題について考察する。	・行動観察 ・プリント確認
6月	第3章 現代の民主政治	1 民主政治の基本原則 2 世界のおもな政治体制 <前期中間考査> テスト返却 振り返り 3 政党政治と選挙 4 現代民主政治の特質と課題	・歴史的にみて、基本的人権の保障の拡大について理解する。 ・各国の政治制度について、インターネットで情報を収集し、日本の政治制度との違いを理解する。 ・今までの学習に対する取り組みや理解度の振り返りをする。 ・日本の選挙制度の特徴と問題点について考察する。 ・行政権の役割が拡大してきた背景について理解する。	・行動観察 ・プリント確認 ・ノート点検 ・自己評価
7月	第4章 現代の国際政治	1 国際社会と国際法 主題3 人種・民族問題 " (夏休みの課題)	・国際社会で起こる現実の問題を解決する仕組みを通して、国際政治の特質を探究するとともに、それらの問題(国際紛争)が起こる要因について探究し、それぞれレポートにまとめ、発表する。	・行動観察 ・プリント確認 ・課題レポート評価
9月	第2編 第1章 現代経済のしくみ	2 国際連合と国際協力 3 国際政治の動向 4 国際社会と日本の役割 <前期期末考査> テスト返却 振り返り	・集団安全保障の内容を理解し、必要性を考察する。 ・東西対立、および冷戦の概要、核戦争の危険と核抑止論について理解する。 ・日本の国際平和における役割を考察する。 ・今までの学習に対する取組や理解度の振り返りをする。	・行動観察 ・プリント確認 ・自己評価
10月	第2編 第1章 現代経済のしくみ	1 資本主義経済の発展と変容 2 社会主義経済の形成と変容 3 市場のはたらきと企業 4 経済成長と景気変動 5 金融と財政の役割	・資本主義経済と社会主義の変容について具体的な国を取り上げて調べ、まとめる。 ・市場経済の基本的な考え方について理解し、現実の経済活動や経済政策にどのように反映されているか調べ、まとめる。 ・国や地方公共団体の財政活動の意味や役割を理解し、現実の経済活動や経済政策にどのように反映されているか調べ、まとめる。	・行動観察 ・プリント確認
11月	第2章 現代経済と福祉の向上	1 日本経済のあゆみと現状 <後期中間考査> テスト返却 振り返り 2 中小企業と農業 主題4 農業と食料問題 3 消費者問題と公害問題 4 労働関係の改善 5 社会保障の充実	・バブル経済の発生と崩壊の過程を理解し、もたらした問題点について考察する。 ・今までの学習に対する取組や理解度の振り返りをする。 ・バイオテクノロジーによる遺伝子組み換え食品などについて調べさせ、新しい農業の在り方、食料の安全性や国際的な食料問題について考察し、自らの考えをまとめ、表現する。 ・具体的な消費者問題を調べ、消費者保護の在り方について考察する。 ・現在の労働をめぐる問題と社会保障の抱える課題について考察する。	・行動観察 ・プリント確認 ・課題レポート評価 ・発表を評価 ・自己評価 ・ノート点検
12月	第3章 現代の国際経済	1 国際経済のしくみ 2 国際経済の動向 主題5 経済摩擦と外交 3 発展途上国の諸問題 4 国際経済と日本の役割 主題6 国際社会における日本の役割 振り返り <学年末考査>	・自由貿易の考え方を、保護貿易政策と対比させることにより理解し、経済摩擦解消の在り方について自らの考えをまとめ、表現する。 ・南北問題が生ずる原因と、南と北がどのように対応してきたか理解する。 ・日本が国際社会に貢献してきた具体的な事例を調べ、その現状や他の先進国との比較などを通して国際社会における日本の立場と役割について考察し、自らの考えをまとめ、表現する。 ・今までの学習に対する取り組みや理解度の振り返りをする。	・行動観察 ・プリント確認 ・発表を評価 ・自己評価
3月				

評価の観点と方法について：評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用・表現」「知識・理解」に基づいて、平素の学習意欲や学習態度、授業プリント、課題レポート、振り返りシート、ノート点検、定期考査等によって行う。定期考査は年に4回(6月上旬、9月下旬、11月下旬、3月上旬)。

具体的な学習活動について：現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄について、基本的事項の知識・理解の習得に努める学習活動、広い視野に立って多面的・多角的に考察する学習活動、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する学習活動を取り入れる。

#### 留意点

課題追究的な学習について：「現代社会の諸課題」は、政治や経済の基本的な概念や理論を用いて、現代社会に見られる諸課題の本質や問題点をとらえさせるとともに、課題の意欲的な追究を通して望ましい解決の在り方について様々な観点から考察させることをねらいとしている。そのため、関連する項目とともに年間の指導計画の中に位置づけ、現代社会の諸課題をとらえるいくつかの代表的あるいは対照的な考え方を対比させながら、課題追究的な学習を行う。

課題追究的な学習の方法：新聞記事や関連図書、インターネットなどを利用し、必要な情報を集め、図表やグラフ、写真なども効果的に取り入れながらレポートとしてまとめ、その内容をプレゼンテーションやディベートなどの形で表現する。

## 単元ごとの指導と評価の計画の例

### 1 科目の目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### 2 科目全体の評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、客観的に考えようとする態度をもち、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進に向けて主体的に参加、協力しようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

### 3 大項目ごとの評価規準 「(1) 現代の政治」の二つの大項目の評価規準

#### 「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究し、望ましい政治の在り方や政治参加の在り方を客観的に考えようとしている。	現代の政治から課題を見いだし、民主政治の本質や現代政治の特質を多面的・多角的に考察し、望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、民主政治の本質や現代政治の特質、望ましい民主政治の在り方や政治参加の在り方について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	日本国憲法の基本的性格、政治機構、政治と法の機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義など民主政治の基本原則や、民主政治の本質と特質をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

#### 「(1) イ 現代の国際政治」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代の国際政治に対する関心を高め、国際政治の特質や国際紛争の諸要因を意欲的に追究し、国際社会における日本の役割を客観的に考えようとしている。	現代の国際政治から課題を見いだし、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について多面的・多角的に考察し、国際社会における日本の役割について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。	現代の国際政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、国際政治の特質や国際紛争の諸要因、国際社会における日本の役割について追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	国際政治の動向、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際機構の役割、我が国の防衛を含む安全保障の問題、国際政治の特質や国際紛争の諸要因をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

### 4 単元ごとの指導と評価の計画（内容のまとめりごとの評価規準・単元ごとの評価規準を含む）

#### 例「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 - 日本国憲法の基本的性格 -」の場合 大単元の目標

日本国憲法の基本的性格を取り上げながら民主政治の基本原則について理解させるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等、法と規範などについて取り上げ、民主社会に主体的に生きる人間の在り方生き方について考える。

#### 大単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>現代日本の政治の動向に対する関心が高まっている。</li> <li>国民主権を原理とする民主政治の本質や現代政治の様々な特質を意欲的に追究している。</li> <li>望ましい政治の在り方や国民の政治参加の在り方を客観的に考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代日本の政治の動向から課題を見いだしている。</li> <li>国民主権を原理とする民主政治の本質や現代政治の様々な特質を、多面的・多角的に考察している。</li> <li>望ましい政治の在り方や国民の政治参加の在り方について、価値観が多様化し利害対立が複雑化するなどの社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代日本の政治の動向に関する諸資料を様々なメディアを通して収集している。</li> <li>収集した資料の中から国民主権を原理とする民主政治の本質、現代政治の様々な特質、望ましい政治の在り方、国民の政治参加の在り方などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。</li> <li>国民主権を原理とする民主政治の本質、現代政治の様々な特質、望ましい政治の在り方、国民の政治参加の在り方について追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法は、基本的人権、国民主権及び平和主義を基本原則とし、その性格として国民国家の枠を越えた普遍性をもつことに気づき、その知識を身に付けている。</li> <li>基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果として確立されてきたものであり、人間が生まれながらにしてもつ権利として基本的人権を実現することが現代の普遍的な価値となっていることを理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>日米安全保障条約や自衛隊など我が国の防衛に関する基本的事項に触れる中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに関わっているかを理解し、その知識を身に付けている。</li> </ul>

小単元「日本国憲法の基本的性格 その3 平和主義と憲法」の各授業時間ごとの主な内容（小単元計画）

「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 - 日本国憲法の基本的性格 - 平和主義と憲法」			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間	憲法の前文・第9条の内容の理解	「日本国憲法と平和主義」 憲法の前文・第9条の内容を確認し、憲法制定当時の日本を振り返り、平和主義の尊さを考える。【知識・理解】【思考・判断】 自衛隊の成立について確認する。【知識・理解】 第9条の政府解釈とその変遷について確認する。【知識・理解】	行動観察・机間指導 発問、挙手、発表
第2時間目	憲法第9条、自衛隊についての考察	「あなたはどうか考える? ~ 自衛隊について ~」 自衛隊について、現在の動きを思い浮かべる。【関心・意欲・態度】 新聞記事「イージス艦派遣」について、重要語句を調べながら、内容を読みとる。【思考・判断】【知識・理解】 「イージス艦派遣」について、賛成・反対の両方の立場の主張を理解し、何が争点になっているかを考察する。【思考・判断】【技能・表現】【知識・理解】 自衛隊をめぐる合憲・違憲論争が何故起こるのか、憲法第9条の解釈を踏まえて考える。【知識・理解】【思考・判断】 自衛隊は合憲か違憲か、自分の考えをプリントにまとめる。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 自分の考えを発表する。【関心・意欲・態度】【技能・表現】	行動観察・机間指導 発問、挙手、発表 プリントの記入・提出
第3時間目	討論 自己評価	「あなたはどうか考える? ~ 日本国憲法第9条について ~」 プリントをもとにグループ（6～7人程度）で、「日本は憲法第9条を改正すべきかどうか」について、ミニディベートを行う。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】【知識・理解】 振り返りシートに記入する。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】【知識・理解】	行動観察・机間指導 プリントの提出 振り返りシートの記入
第4時間目	日米安全保障条約についての理解と考察 安全保障問題に関して、現状把握と今後についての考察	「日米安全保障条約と今後の安全保障問題」 前時の振り返りシートにより、他者の考えを認め、良いところを見つけていく。【関心・意欲・態度】 憲法第9条の改正論の論点を確認する。【知識・理解】 自衛隊の合憲・違憲論についての現在の裁判所の判断を理解する。【知識・理解】 日米安全保障条約の内容とこれがどのように変化し、また国内にどのような論議が起こったか、そして最近の動きにはどのようなものがあるかを理解する。【知識・理解】 冷戦終結後の国際情勢の変化の中で、新たな日本外交の展開はどうあるべきかを考える。【思考・判断】【知識・理解】	振り返りシートの提出 行動観察・机間指導 発問、挙手、発表

の具体的な学習活動と評価規準

	学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解
第1時間目	<b>講義形式</b> ： 憲法と平和主義に関する基礎的知識の理解	・憲法制定時の日本を振り返り、平和の尊さについて関心をもって学ぼうとする。 【行動観察・机間指導】			・日本の戦後のあゆみと関連づけて、自衛隊の歴史が分かる。 【発問、挙手、発表】
第2時間目	<b>講義、作業、発表</b> ： 新聞記事の理解と発表	・新聞やテレビなどの報道に関心をもつことができる。 【行動観察・机間指導】 【発問、挙手、発表】	・争点について二つの立場から考え、自分の考えをプリントにまとめることができる。 【プリントの記入と提出】 ・合憲・違憲論争が起こる理由を自ら考えることができる。 【行動観察・机間指導】 【発問、挙手、発表】	・新聞記事の内容を適切に読み取り、要旨をまとめることができる。 ・自分の考えを適切にまとめ、表現することができる。 【プリントの記入と提出】	・憲法9条の平和主義と自衛隊の法的取り扱いについて分かる。 【プリントの記入と提出】
第3時間目	<b>討論会形式</b> ： ミニディベート <b>自己評価</b> ： 振り返りシート	・グループで協調しながら、課題に取り組むことができる。 【行動観察・机間指導】 ・本時の取組について、学んだこと、気付いたことなどを振り返りシートに書くことができる。 【振り返りシートの記入と提出】	・相手の論理を素早く分析し、自分の立場から論理を組み立てることができる。 【行動観察(ディベート)】 ・ディベートを見て、自分の考えを組み立てることができる。 【発問、挙手、発表】	・賛成派、反対派相手の主張を整理し、授業プリントにまとめることができる。 【プリントの記入と提出】	・重要語句意味が分かる。
第4時間目	<b>講義形式</b> ： まとめと考察	・振り返りシートにより、他者の考えを認め、良いところを見つけていくことができる。 【行動観察・机間指導】 【発問、挙手、発表】	・国際情勢の変化の中で、今後の日本外交はどうあるべきかを考えることができる。 【行動観察・机間指導】 【発問、挙手、発表】		・自衛隊の合憲、違憲論と現在の裁判所の判断について分かる。 【発問、挙手、発表】

学習指導案の例

教科(科目)	政治・経済	単元名	「(1) ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 - 日本国憲法の基本的性格 -」
本時主題	平和主義と憲法 「あなたはどうか考える? ~日本国憲法第9条について~」 (3時間目/4時)		
本時の目標	ミニディベートを通して、相手の立場に立ってものごとを考え、また、自らの考えをうまく表現することができる。【思考・判断】 憲法第9条を改正すべきとする考え、改正せずそのまま維持すべきとする考えの両方の立場の主張を理解し、自分の考える論理的に組み立てることができる。【思考・判断】【技能・表現】 振り返りシートにより本時の取り組みを振り返り、今後に活用することができる。【関心・意欲・態度】 憲法第9条の争点について基本的な事項を理解する。【知識・理解】		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
5分間活動 前時までの確認	教科係による5分間活動 前時までの確認 Question 1 自衛隊について、憲法第9条の解釈の争点はどこか、もう一度確認しよう。 ・自衛隊は憲法第9条にある「戦力」に相当するかどうか。	5分間活動が本時につながるように補足をする。 「集団的自衛権」「自衛のための必要最小限度の実力」「戦力」「解釈改憲」などの語句とともに確認する。【知識・理解】 <評価方法> 発問、挙手、発表	
・自分なりに課題を把握し、本時の見通しを持つことができる。 10分 ミニディベート	本時の論題(授業課題)・手順の確認 ・6~7人程度のグループを作る ・司会進行役を決める ・グループ内で賛成派と反対派に分かれる(席を移動し向かい合う) ミニディベートの開始 「日本は憲法第9条を改正すべきであるかどうか」 賛成派側の主張(賛成派全員がそれぞれ自分の考えを述べる) 反対派側の主張(反対派全員がそれぞれ自分の考えを述べる)	グループで素早く取りかかりができるように促す。 授業プリント2にまとめたものを読み上げさせるだけでなく、自分の言葉で主張できるよう意識させる。 相手側の主張の時にメモをとらせ、相手の要旨をつかませる。 【思考・判断】 <評価方法> 行動観察・机間指導 授業プリント 授業終了時提出	
・自らの考えをうまく表現することができる。 ・相手の立場に立ってものごとを考えすることができる。	Question 2 「日本は憲法第9条を改正すべきであるかどうか」 自分の考えを主張しよう。 作戦タイム(賛成派・反対派それぞれで自分たちの主張について話し合い、相手の論点の弱いところを考える) 反対派側からの質問(反対派全員が必ず一度は質問をする) 賛成派側からの質問(賛成派全員が必ず一度は質問をする)	同じ主張のメンバーで自分たちの主張の確認、相手の論点の弱いところを考えさせる。 相手の論点の弱いところを追及させる。 論戦が活発に行われない場合に適切な援助を行う。 【思考・判断】 <評価方法> 行動観察・机間指導	
・相手の論理を素早く分析し、対応することができる。 (相手の発言のたびに自分で考え、自分の意見を持つことができる。)	Question 3 相手の論点の弱いところはどこだろうか? 相手に質問してみよう。 作戦タイム(自分たちの主張を再度確認する) 反対派側のまとめの主張(反対派全員が自分のまとめの考えをそれぞれ述べる) 賛成派側のまとめの主張(賛成派全員が自分のまとめの考えをそれぞれ述べる)	相手からの質問を踏まえ、再度自分たちの主張を確認させる。 自信を持ってまとめの発表ができるよう援助する。 【技能・表現】 <評価方法> 行動観察・机間指導	
・幅の広いものの見方、考え方ができる。	Question 4 相手からの質問を踏まえ、もう一度、自分たちの主張を確認し、まとめの主張をしよう。		
40分 振り返り	振り返りを行う Question 5 今日の取り組みを振り返ってみよう。 分かったことなどをまとめてみよう。	本時の学習での取り組み状況、学んだこと、気がついたことなどを記入させる。 本時の取り組みに対して、生徒を認め、価値づけ、方向づけをする。【関心・意欲・態度】 <評価方法> 振り返りシート記入、事後提出 次時の問題提起を行う。	
50分			

## 4【補説】目標に準拠した評価（以下「目標準拠評価」とする）と評価規準について

### Q1：目標準拠評価においては、観点別評価はどのように位置づけられるか。

目標準拠評価は、目標の実現状況をとらえて評価する。しかし、教科・科目の目標は非常にトータルな実現状況を示しており、目標の達成度をいきなり評価するのは困難である。そこで、評価にあたっては、目標をいくつかの質の違うものに分けてそれぞれの評価をし、そのそれらの評価を総括することとなる。前者を「観点別学習状況評価（以下「観点別評価」とする）」と言う。学習指導要領では「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4観点が示されている。後者は「観点別評価を評定に総括する」手順となる。

### Q2：目標準拠評価を行うための条件は何か。資料

目標準拠評価を行うための第1の条件は、学習指導のねらい（目標）が明確になっていることである。学習指導のねらいは、「ある一定の意味のある内容のまとまり」に対するものであり、通常は学習指導要領の中項目レベルとなる。ここで紹介した政治・経済の指導例では「日本国憲法と平和主義」を一つの単元として、学習指導のねらい（目標）が設定されている。

第2の条件は、「学習指導のねらい（目標）が実現された状態が具体的に想定されている」ことである。これが「評価規準」である。本稿では科目の目標から演繹した単元の評価規準を示しており、内容的には学習指導要領と解説に基づきつくった評価規準となっている。したがって、各学校では、それぞれの実情や学習素材が違うのだから、授業で取り上げる教材や学習指導のねらい（目標）の違いを反映した独自の評価規準を作成すること必要がある（資料）。

第3の条件は、「評価方法・手段が事前に準備されている」ことである。目標準拠評価では、ねらい（目標）の実現状況を評価規準に照らして測定することであるから、評価規準と評価方法・手段をセットにして事前に準備しておくことが必須の要件となる。

この他に、「どこで評価を行うか（評価場面）」ということも大切である。目標準拠評価では「指導計画と評価計画をセットで作成する」ことが必要であり、「年間指導計画や単元指導計画に評価場面と評価方法・手段をきちんと位置づける」ことが必須となる。なお、「どこに」評価場面を設定するかであるが、これは全体としての単元のねらい（目標）や流れ、学習指導要領の内容などから自ずと明らかになる。

### Q3：目標準拠評価に対応した授業では何が大切になるか。

目標準拠評価に対応した授業づくりで大切なのは、「何をするのか」「何ができればいいのか」「何が分かればいいのか」などが単元や授業の冒頭で生徒に示されていることである。ただこの場合にも、「で情報を収集し、ワークシートに理由について自分の考えを書けること」という形で、学習テーマは可能な限り具体的に提示したい。なぜなら、生徒にとっては「何が評価されるのか」が大きなポイント・関心事となるからである。

この他に、学習活動の過程における評価も大切である。これは、生徒の学習活動を励ましたり、修正する役割がある。その形式が自己評価や生徒同士の相互評価であったとしても、「指導と一体化した評価」として効果的に機能する場合が多い。

### Q4：観点別評価の4観点は、異なる重み付けが可能か。資料

観点別評価の4観定の重み付けについては、学習指導要領の内容から明らかとなる。例えば、現代社会の大項目(1)「現代に生きる私たちの課題」は学習の動機付けに重点が置かれているから、このような位置づけから「関心・意欲・態度」の比重が重くなる。また、政治・経済の大項目(3)「現代社会の諸課題」の中項目ア「現代日本の政治や経済の諸課題」では、大項目(1)(2)で学んだ政治・経済の基本概念や理論の枠組みを用いて具体的な課題を追究し、望ましい解決の在り方について考察することがねらいであるから、相対的に「思考・判断」に比重がかかることになる。

このことは当然評価方法や手段の重み付けの違いともなる。例えば、「課題を設定して調査をし、レポートにまとめる」学習活動の場合には、評価手段としての課題レポートに重きを置くこととなる。

### Q5：「関心・意欲・態度」の観点による評価はどうあるべきか。

この観点は、学力の情意的側面を評価しなければならないことから、数値の評価や客観性の確保に課題があり、他の観定に比べて評価しづらいものとなっていた。しかし、これからは平常点として評価するのみにとどまらず、学習前と学習後の変容の度合いを測ったり、疑問に思うこと・調べてみたいことを書かせるなどして、その評価方法や手段に一層工夫する必要がある。

### Q6：「思考・判断」の観点による評価はどうあるべきか。資料

この観点は、これまで一般的に文章表現により評価されることが多く、評価にあたっては基準づくりの難しさや評価時間（時間がかかる）等の問題から、量的に制限される傾向があった。しかし、これからは「生きる力」の育成をめざす学習活動を展開するために、これまで以上にこの観定を重視する必要がある。

評価にあたっては、従来実施されてきた文章表現のみならず、グラフや図表の読み取りと関連させた学習教材を工夫するなど、一層の努力が必要である。一例をあげれば、ディベートの要素を取り入れた学習活動により論理的な思考力をみたり、意思決定表やトゥールミン図式を活用するなどして、多面的な観点から思考させ、異なる判断・解決策を問うなどの方法が考えられる。

### Q7：「資料活用の技能・表現」の観点による評価はどうあるべきか。

情報化社会の進展に伴い、有用な情報の取捨選択能力や多様な表現方法を身に付けることがより一層求められている。情報の検索、処理により適切な資料収集を行い、その見方や有効な活用の仕方を身に付けさせることは、公民科の目標である公正なものの見方や考え方を育成する上での基盤をなすものである。

具体的な評価方法としては、

- ・ある事象についての仮説を検証するために、複数の資料から必要なデータを選択させる。
  - ・問題点や背景を考えるために、図やグラフ、表などのデータから特徴や傾向を読みとり、まとめさせる。
  - ・図やグラフ、表などの読み取りから、類推・判断をさせる。
- などが考えられる。

### 目標準拠評価を行うための条件は何か 資料

#### 第1の条件

学習指導のねらい（目標）が明確になっていること。

#### 第2の条件

学習指導のねらいが実現された状態が具体的に想定されていること。 評価規準

#### 第3の条件

目標準拠評価をするための評価方法・手段が事前に準備されていること。

### 評価規準の基本部分と学校段階の応用部分 資料

#### 基本部分

学習指導要領と解説に基づいてつくった評価規準（本稿）

#### 応用部分

基本部分で示した評価規準をもとに、各学校の実情に即して評価規準を作成する。

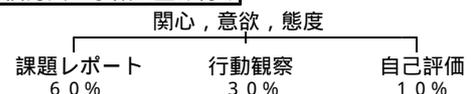
資料

### 4観点は、同一の重み付けをすべきか

#### 4観定の重み付け

学習指導要領の内容から「どの項目（中項目）にはどの観定がポイントとなるか」が明らかとなる。

#### 評価方法・手段の重み付け



資料

### イギリスの哲学者S・トゥールミンの「議論の図式」（通称：トゥールミン図式）を利用した例

#### 事実

村に原子力発電所の立地計画がある。

#### 主張

私は_____すべきだと考える。

#### 正当化する根拠

なぜなら _____ である。

#### 裏付け

なぜそういえるかは _____ だから。

#### 問1 上のトゥールミン図式を完成させなさい。

#### 問2 問1で解答した立場とは逆の立場で、上のトゥールミン図式を完成させなさい。

**Q 8：ペーパーテストはどうあるべきか。**

ペーパーテストの改善も評価方法を開発する一つの有効な手段である。ペーパーテストはすべての生徒にはほぼ同じ条件で実施することが可能なので知識・理解を中心に達成度をはかる評価方法・手段としてこれまで最も利用されてきた。

しかし、新学習指導要領の「生きる力」と4観点にもとづく評価を考慮するならばペーパーテストの内容も改善されるべきだし、新しい授業が展開されているのにペーパーテストが旧態依然というのは大きな問題である。

今後は、「知識・理解」以外の他の観点による評価もないうる手段として、ペーパーテストを改善することが必要である。他県では資料で例示したツールミン図式を用いた考查問題が考案され、「思考・判断」を測る手段として利用されている。その他に、改善の一例を資料に示した。

**アルミ缶やペットボトルのリサイクルを進める  
解決策についての出題**

次の5人の生徒の主張を参考にして下記の問いに答えよ。

- 生徒 分別回収を徹底しましょう。
- 生徒 製品に税金をかけ、購入者が負担すべし。
- 生徒 企業が処理費を負担すべし。
- 生徒 法律によってアルミ缶やペットボトルの使用を禁止すべし。
- 生徒 容器の再利用を促すためにデポジット制を採用すべし。

**問い** あなたは生徒～のどの解決策を支持しますか。支持する番号を選び、その支持理由を説明しなさい。それ以外の解決策を考えた場合はその方法と理由を書きなさい。

**Q 9：どのようにして観点別評価を評定に総括するか(例1)**

資料

観点別評価を評定に総括する手順としては、例えば以下に示すようなABCの3段階の基準を用いる方法がある。

資料

**【手順】**

- 1 補助簿の利用による観点別評価資料の累積  
(年間指導計画にそった評価の実施と観点ごとの評価の蓄積)
- 2 補助簿に累積された観点ごとの評価資料の総括  
具体例  

	山田さん	大橋さん	吉田さん
・ 関心・意欲・態度	A	A	B
・ 思考・判断	B	A	B
・ 資料活用の技能・表現	B	A	C
・ 知識・理解	A	C	A
計	6	6	4
- 3 評定への総括  
換算例  

7以上	...	評定5	・ 5、6	...	評定4
3、4	...	評定3	・ 2、1	...	評定2
0	...	評定1			

**【観点別学習状況の評価基準例(3段階)】**  
 A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

**どのようにして観点別評価を評定に総括するか。  
さまざまな評価資料**

平素の学習意欲や学習態度、授業プリント、課題レポート、振り返りシート、ノート点検、定期考査など

補助簿への記録  
(各観点ごとの評価の累積)

各観点ごとに評価を総括しABCを確定する作業

A=2,B=1,C=1とする。  
 AAAA = 8, ABBA=6, CCCC = 0 など  
 7以上=評定5, 5・6 = 評定4 ……

補：手順2の「補助簿に累積された観点ごとの評価資料の総括」については、「比較多数による総括」という手法を用いた資料の

例がある。この場合、「思考・判断」は「Aが2つ、Bが1つ」なので、相対的に数が多い「A」が「思考・判断」の最終的な評価となる。また、特定の観点到に重み付けをする場合(例：単元で「資料活用の技能・表現」を重視する等)には、2A、3Aという形で処理することも可能である。

単元や学習のまとめ	資料					観点別評価の最終総括	結果
関心・意欲・態度	A	A	A	A	A	3A	A
思考・判断	A	A	B	B	B	2A1B	A
資料活用の技能・表現	A	A	B	B	B	2A3B	B
知識・理解	C	B	C	C	B	2B3C	C

AABC 2+2+1+0 = 5  
 5,6 ... 評定4 評定4

例：単元「世界のおもな政治体制」(中心となる学習活動：インターネットを用いて調べたことをグループで発表する)

**Q 10：どのようにして観点別評価を評定に総括するか(例2)**

資料は、各観点別評価を累積し総括する(Q9の1と2の手順)のための補助簿(個人カード)の一部にABCD法と100点法を用いて、評定につなげる事例である。ここでは、100点法が馴染みにくい評価項目でABCD法を使用している。この方法では各観点別評価の総括を100点法で出すので、各学校がこれまで用いてきた手法と馴染みやすいし、特定の観点到への重み付けもしやすい。

**【個人カード】資料**

番号	氏名	関心・意欲・態度			思考・判断			資料活用の技能・表現			知識・理解			備考	
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
20	安 一郎	観	ノ	参	評	課	考	意	評	活	発	考	行	評	
		察	ト	加	価	題	査	見	価	ま	め	査	知	価	
						記	述			と	表	所	識		
										用	の	の			
6/	世界の主な政治体制	A	A		80					B	C	B	53		インターネットと資料作成
6/	前期中間考査					10		50					60		思20点、知80点
7/	国際紛争(発表)					A	B	70	A	B	B	63			
**/**						**		**	**			**	**		
	評価と評定				85			60				70		80	(平均)74:(評定)4

**基準(目安)**

A:優れている	80
B:良い	60
C:もう少し	40
D:努力が必要	30
100点満点	

**【評定への総括】**

**換算例**

- ・ 80点以上 ... 評定5
- ・ 45点～64点 ... 評定3
- ・ 29点以下 ... 評定1
- ・ 65～79点 ... 評定4
- ・ 30～44点 ... 評定2

**思考力・判断力を問う問題**

配点20点 得点10点(正答率50%)

**知識・理解を問う問題**

配点80点 得点60点(正答率75%)

以上モデルパターンとして二例を紹介したが、どのような算出方法をとるにせよ、高等学校における評価が絶対評価であり目標標準評価であることを踏まえるならば、観点別評価を抜きにして最終的な5段階評定は成り立ちえない。

したがって、各学校はそれぞれの状況に応じた評価方法の一層の工夫と改善が求められるのである。

## 5【補説】「評価から評定への総括」の具体例

以下、「現代社会」を例にした、「評価から評定への総括の具体例を2例紹介する。

例1 定期考査の観点別集計、全体の観点別の評価を明示しない形式

長所...これまでの普通の高校で行われていた評価方法の発想から大きくずれておらず、扱いやすい方法となっている。

課題...観点別の視点からの評価という形にはなっているが、観点別の評価示さない形となっており、評価規準を設定した評価の道筋が途中で失われている。説明責任の合理性(貫徹)という点からは、無理がある。

### 補助簿1 (場面ごとの評価の記載する補助簿) の説明

単元(題材)ごとの学習など、あらかじめ「指導と評価の計画」によって実施を予定していた評価の場面ごとの評価記録である。

略記号は、それぞれ、【関】=関心・意欲・態度、【思】=思考・判断、【技】=技能・表現、【知】=知識・理解を意味する。

【関】・【思】・【技】については、A(充分満足できる状況)・B(おおむね満足できる状況)・C(努力を要する状況)で評価している。

【知】については20点×2回、10点満点×1回の小テストの点数をそのまま示している。

中間・期末考査については、素点をそのまま数値で示している。

番号	氏名	第1部課題									第2部第1章青年					第2部第2章経済と福祉					考査		小テスト										
		メディア・リテラシ	科学技術	科学技術	科学技術	科学技術	科学技術	社会福祉	社会福祉	社会福祉	社会福祉	大量生産と画一化	ポ・ダ・レス化の調査	日本の高齢化社会の問題点	青年期とはアンケート	心理テスト考察	帰納法と演繹法の違い	日本人とは何か	日本人は無宗教か	現代日本の経済の相	最近の企業の動向レポート	規制緩和についてレポート	資本主義と社会主義の相違	パブルとは何か	この15年間の経済レポート	なぜゼロ金利	討論財政・金融の問題点	発言・机間指導	中間考査	期末考査	小テスト	小テスト	小テスト
1		A	A	B	B	A	A	A	B	A	A	C	B	B	A	A	B	B	B	A	B	B	B	A	A	A	B	A	85	75	15	20	10
2		B	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	65	55	8	12	9

注1 評価項目最下部の記号 **P**プリント **質**質問紙 **レ**レポート **ア**アンケート **テ**テスト **観**行動観察  
 注2 「発言・机間指導」等の欄は、この補助簿とは別に、出席確認簿などに、授業中の優れた発表などを評価・記載して、前期・後期ごとにABCで示している。

### 補助簿2 (補助簿1から前期評定を算出するための補助簿)

補助簿1の各観点別の評価を点数化。

各学校毎(または教務内規等)に決められている換算表により、10段階評価・5段階評定に換算

番号	氏名	【関】	【思】	【技】	【知】	発	定期考査		合計	10段階評価	5段階評定
		換算点数	換算点数	換算点数	換算点数	換算点数	中間	期末	換算点数		
		80	80	80	50	10	100	100	200		
1		61	58	77	45	10	85	75	160	82	9
2		50	56	57	29	5	65	55	120	64	7

・補助簿1の【関】【思】【技】をA=3 B=2 C=1として点数化。満点は以下のとおり。  
 【関】7項目=21点 【思】11項目=33点  
 【技】9項目=27点 【知】小テスト=50点  
 ・これを左表の80:80:80:50に換算。  
 例 【関】は、個人合計点数×80÷21  
 ・「発言・机間指導」は別にA=10 B=5点 C=1点に換算。  
 ・定期考査については、単に知識理解を確認する問題だけではなく、技能・表現、思考・判断を問う問題を含めることとし、但し、全体として、考査独自で点数を集計。

・この結果、左表の換算点数の合計は、500点となる。評価判定点数はこれを5で割って100点としている。  
 ・評価判定点数は、各学校の規定に従い10段階評価へ換算。  
 例 100~90=10 89~80=9 79~70=8 69~60=7 以下略  
 ・10段階評価は、各学校の規定に従い評定へ換算。例 10÷9=5 8÷7=4 6÷5=4=3 以下略

例2 定期考査を観点別に集計し、全体の観点別の評価を表記する形式

長所... 観点別の評価を正しく実施する方法となっている。  
 課題... 定期考査の観点別集計など、評価の計画性、処理の煩雑性の克服など、より緻密な対応が必要である。

補助簿1 (場面ごとの評価の記載する補助簿) の説明

単元(題材)ごとの学習など、あらかじめ「指導と評価の計画」によって実施を予定していた評価の場面ごとの評価記録である。

略記号は、それぞれ、【関】=関心・意欲・態度、【思】=思考・判断、【技】=技能・表現、【知】=知識・理解を意味する。

【関】・【思】・【技】については、A(充分満足できる状況)・B(おおむね満足できる状況)・C(努力を要する状況)で評価している。

小テストについては20点×3回分をそのまま点数で記載している。

中間・期末考査については、【知】のみならず、【思】【技】の観点を問う問題も出題し、観点別に得点を集計。【思】:【技】:【知】=15:15:70の割合とし、素点で記載している。

前期評価の補助簿1 (評価場面ごとの評価の記録と観点別の集計)

番号	氏名	【関心・意欲・態度】								【思考・判断】								【技能・表現】				【知識・理解】																	
		1 科学技術 発展への意欲課題	1 社会福祉 問題点の把握	1 社会福祉 発表評価	21 ボーダーレス化の調査	21 青年期とはアンケート	22 最近の企業の動向レポート	22 討論財政・金融の問題点	発言・机間指導	1 科学技術 判定	1 科学技術 発表テーマ	1 社会福祉 課題発見	21 大量生産と画一化	21 心理テスト考察	21 帰納法と演繹法の違い	21 日本人とは何か	22 規制緩和についてレポート	22 資本主義と社会主義の相違	22 この15年間の経済レポート	22 なぜゼロ金利	中間考査	期末考査	1 メディア・リテラシ	1 科学技術 資料収集	1 科学技術 調査内容	1 社会福祉 資料作成	1 科学技術 生殖医療問題点	21 日本の高齢化社会の問題点	21 日本人は無宗教か	22 現代日本経済の様相	22 パブルとは何か	中間考査	期末考査	小テスト	小テスト	小テスト	中間考査	期末考査	
		P	P	P	レ	ア	レ	P	観	P	P	P	質	P	質	P	レ	質	レ	質	15点	15点	P	P	P	レ	P	質	P	P	質	15点	15点	20点	20点	20点	70	70	
1		B	B	A	B	A	B	B	A	B	A	C	B	B	B	B	B	A	B	B	B	13	15	A	A	A	B	A	A	A	B	A	13	12	17	16	18	65	63
2		B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	10	5	B	B	B	B	B	A	B	B	B	8	3	10	8	9	35	33	

注1 評価項目最下部の記号 P プリント 質 質問紙 レポート ア アンケート テ テスト 観 行動観察  
 注2 「発言・机間指導」等の欄は、この補助簿とは別に、出席確認簿などに、授業中の優れた発表などを評価・記載して、前期・後期ごとにABCで示し、【関】に含めて評価する。  
 注3 数字の1は大単元1現代の諸課題、21は大単元第2部第1章青年、22は第2部第2章経済と福祉の各単元を示す。

補助簿2 (補助簿1から前期評定を算出するための補助簿)

補助簿1の各観点別の評価を点数化。  
 各学校毎(または教務内規等)に決められている換算表により、10段階評価・5段階評定に換算

前期評価の補助簿2

番号	氏名	【関】	【思】	【技】	【知】	合計	評価判定点 合計÷	10段階 評価	5段階 評定
		換算点数 P等 50	換算点数100 P等 70	換算点数100 定考 30	換算点数100 P等 70	換算点数100 定考 30			
1		38A	47+28=75A	64+25=89A	51+128=179A	381	85	9	5
2		28B	45+15=60B	45+11=56B	27+68=95B	239	53	5	3

・補助簿1の【関】【思】【技】をA=5 B=3 C=1として点数化。満点は以下のとおり。  
 【関】8項目=40点 【思】11項目=55点  
 【技】9項目=45点  
 ・これを左表の50:70:70:に換算。  
 計算例 【関】は、個人合計点数×50÷40  
 ・小テストの60点分はそのまま計算。  
 ・定期考査の3観点の点数もそのまま計算。  
 ・上記の処理の結果、換算点数は、  
 【関】:【思】:【技】:【知】=50:100:100:200としている。  
 ・合計は、【関】【思】【技】【知】の換算点の合計。満点450。  
 ・評価判定点はこれを4.5で割って100点に換算している。

・各観点については、数値換算の点数によって、次のように観点別の評価ABCを付ける。  
 【関】50~3540=A 34~15=B 14~1=C 【思】・【技】100~70=A 69~30=B 29~1=C  
 【知】200~140=A 139~60=B 59~1=C  
 ・評価判定点は、各学校の規定に従い10段階評価へ換算。  
 例 100~95=10 94~85=9 84~78=8 78~70=7 69~60=6 59~50=5 以下略  
 ・10段階評価は、各学校の規定に従い評定へ換算。 例 10・9=5 8・7=4 6・5・4=3 以下略